

2015年7月16日(木)

# 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第72号

## ソーシャルスキルはじめての一步

普通の学校生活で、「ああ、この子はいつもしっかり挨拶ができるな」と思う子や「この子の挨拶は気持ちがいいなあ」と思う子がいます。

会うたびに、感じのいい生徒だなという好感と、きっとこの生徒はどこにいても同じようにできるんだろうという安心感を持ちます。

子ども達は日々何十人との人と顔を合わせます。

近所の人、隣の上野ヶ原特別支援学校の先生、学校に来るお客様、友達とまではいかない同級生、こうした人とじっくり話をすることはなかなかできません。

相手を知ること、自分を知ってもらうことも難しいでしょう。

でも挨拶なら誰にでもできます。

1学期も後半になると、毎年挨拶の様子にちょっと変化が出てくる生徒がいます。

蚊の鳴くような小さな声しか出せなかったのに、こちらをまっすぐ見て大きな声で挨拶できるようになった1年生。

この時期、先輩として自覚が出てきた2年生。就労を意識した様子で誰にでもしっかり挨拶できるようになった3年生。

今年も数人、変化があった子には声を掛けています。変化を嬉しく思いながら廊下で会う事を楽しみにしていました。が、私が気付かないだけで他にもいるのかもしれない。

小さなコミュニケーションですが、ソーシャルスキルでは真っ先に扱われる大切な“挨拶”。みんなには挨拶上手になってほしいものです

1学期の“未来への扉”は今回で終わりです。  
今学期保護者の皆様にお伝えしたかったことは、

基礎学力をこれ以上つけることを重視する時期は終わり、  
社会に出る一歩手前のこの時期、大切にしたい目標は

「生活や人間関係の中で、適切な言動をとる実践的な力」  
であるソーシャルスキル

と

「自立をかなえる力」であるライフスキル

ということです。

授業をしていると生徒の中には、

目の前のプリントを鬼気迫る勢いでやり上げて、もっと難しくてたくさんのプリントをちょうだいと言う生徒や、電卓の授業なのに、3ケタ×2ケタのかけ算を自力で筆算でしたいと電卓を拒む生徒もいました。

それが、いい、悪いということではなく、今までの道のりのなかで、学力が上手く積み上がらなかったと、もっと理解できるようになりたかったと、切実な悲しみを持っている生徒がたくさんいることを実感します。

でも今後は、学力で勝負するわけではないことを、まずは保護者の皆様にご存知いただき、生徒達にもがんばりどころを教えていってあげてほしいと思います。



さあ！夏休みが始まります！

夏休みの課題は、教科は違えど、分からない部分は周りに少しヒントをもらいながらも”自分でやり遂げる”集中力と持続力が必要なものとなっています。

そして40日もの長い夏休みが与えられる「学校生活」も本校での夏休みが最後です。社会に出れば、これだけまとまった休みは取れません。本校での夏休み、普段できない「何か」にチャレンジして一回り成長してくれる事を願って、生徒達を応援したいものです。

## うちの先生♪ T.F先生

＜◆ゴシック、(ゴシック)はレポーター＞

☆寄宿舎のT.F先生にお話しを聞いてみました～☆



◆今回は寄宿舎の桜井先生からの推薦を受けました。  
と、その前に…桜井先生がバットを持って登場です♪ 桜井先生、そのバットは何ですか？  
(桜井)これは高橋先生とは切っても切れないものです♪

◆ではズバリ、バットと高橋先生の関係は！？

野球しかないです！ 小2でソフトボールを始めて少年野球～大学でも野球です。高校・大学ではキャプテンを務めさせてもらいました。大学3回生の時に日本代表に選ばれて、中南米へ遠征に行きました。ニカラグア、ドミニカ、ベヌエラ、パナマ。(え！？日本代表って、日本の代表の野球選手ですよ。もう頭の中で付いていけていませんが…。誰にでも出来ることではないですよ！)その後は社会人野球です。ノンプロです。ノンプロっていうのは『野球で飯を食う』ってやつです。西濃運輸の社員でしたが私の仕事は野球です。

◆2003年ベースボールワールドカップキューバ大会、2004年オランダハーレム大会でそれぞれ銅メダルを獲得されたんですって☆はい。その頃一緒にやってたのはヤクルトの石川、巨人の村田・野間口、楽天の草野(すてじ)さん。阪神の能見にDNAの久保とか…

◆…先生もプロになりたかったんですか…、？

もちろんです！！ 何度も候補に名前が上がっていたので次は自分の番だ！と心待ちにしていました。けれども今に至ります(苦笑)。(笑顔の裏にあるその悔しさはどのくらい深いのでしょうか…)

◆もしかしてそこが人生の転機のひとつですか？

そうですね、『プロにはなれない。ではこの先どんな人生を生きていくか』。悩みに悩みました…が過去に自分自身が挫折した時に助けてくれたのは『先生』だったんですよ。それなら今度は野球を通して人としても子どもたちと関わりたいと思ったんです。25歳の決断でした。そこから猛勉強です！

◆奥様とのなれそめも聞かせてもらいました。見た目以上に(見た目通り！？)ととてもとてもピュアな方ですね。

世間知らずなだけです(笑)。高校時代、通帳にわずかながらに入金を続けてくれる人がいて。てっきり母だと思ったんですね。でも振り込んでくれていたのは『トシコさん』だったんです。母に聞くと「それは“利子(りし)”と読むのよ！」って言われました(照)。(純粹ですねえ～高橋先生☆)